

自己評価および外部評価結果(のんき)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が同じ理念を共有し、理解し噛み砕いて具体化して、これからのよりよい介護サービスに、生かしていくよう心がけ努力実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	赤崎保育園の園児さんと、JAかさや農協さん、児島ふれあい市場のみなさんの好意で、サツマイモの収穫と一緒に、行っています。園児さんも、お年寄りも大変喜ばれます。FM倉敷でも取り上げられました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	菰池地区松池学区のおしゃべり会さんの招待で、毎年、松池公会堂で、時間をいただき施設説明会と質問・要望等を伺いさせていただいています。倉敷医療生協の組合員さん説明会を開催いたします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自主評価・外部評価・実地指導・家族アンケート等は、運営推進会議の時に公表して、ご意見、評価や感想をいただき、今後の介護サービスに反映しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書・実践者研修等の報告書・申込書等の岡山県・倉敷市等の報告・申込すべて、担当を施設長の藤原に決めている。質疑等も同様に行っています。尚、困りごと・相談ごと等も、同様に行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	再三の勉強会を開催して身体拘束のないケアを目指し、全職員が高齢者の権利擁護・身体拘束のない介護ケアに向けて職員の共有認識を心がけ実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム全職員が勉強会やミーティングを実施、高齢者虐待防止法の理解浸透や遵守に向けた取組を心がけ実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	偶然青年後見人さんのついた入所者様が入所されました。ホーム職員一同勉強会を開き理解と利用者の支援に向けた取組を行っている。社会福祉協議会の実践者研修等で勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前に重要事項説明を行い、今後起こるであろう問題を、十分に説明・質問を受けて充分納得頂いてから契約書に署名・捺印を頂いて居ります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にアンケート用紙・ご意見承り書等を用意しています。ご意見・ご感想・気がついた点・よかったこと・悪かったこと等を、面会終了時にご記入ご利用いただくように用意しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット間の人事異動は、職員の事情・意見を聞き、できる限り希望を取り入れていきます。職員の要請があれば、いつでもフロアー会議を実施、問題点を参加者全員でプラス思考で考えて実施していきます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の健康診断、インフルエンザワクチン予防接種等の実施。労働条件希望は、出来る範囲で聞き入れる様にしています。楽しくやりがいのある職場を目指し、長く健康で働ける職場環境整備も目指す。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医師によるインフルエンザ・メンタルヘルス・介護労働安定センターによる、経営コンサルタント相談援助コミュニケーション、職場の無駄、報連相のセルフチェック等当ホーム機能訓練室にて勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	先輩ホームさんと、人事交流を一度行った経験はありますが、まだ成功とまでは至っていません。こん後もまた続ける様に計画中です。児島メーリングリストに参加させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に先ずご本人様と面接を行います。今一番困って居られること、…今一番したい事等を、先ず質問する様にしています。その後情報提供をいただきます。私たちのホームで暮らしてもいいですか？		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と面会し、家族の今一番困られていること、どうして欲しいかニーズや希望を伺います。援助が可能か不可能か判断させていただきます。希望に向けての努力と援助できないことへの説明等も行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行なう。連携医療機関との対応で、できる限り薬を減らす様に介護ケアサービスを行なっています。表情が豊かになり、家族も変化に気づかれることが多くあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの相互行為を生かし、広々空間で、利用者様は人生の大先輩である考えを職員が共有し、尊厳を尊重し対応と、色々な場面でご協力や教えていただくこともたくさんあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常生活の様子をきめ細かにお知らせすることで、家族と職員の思いが徐々に伝わり、入所者家族と職員の協力関係が築されていくようになった。家族も職員も知らなかった、意外なきづきの情報もあり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の入居前の担当ケアマネさんに、電話・手紙を差出す時には、写真や手紙を添えさせていただき、電話では現況生活状況を報告いたします。赤崎の八幡様に車で参拝し秋祭りや初詣します。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性について情報を連携し、すべての職員が共有できるようにしています。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化する事もあるので注意深く見守るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の事業所に移られた場合は、アセスメント・ケアプランや支援状況等手渡し、情報交換を行い、なじみの管理者等が訪問に行きます。リロケーションダメージを最小限に食い止めるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様、ご家族様に本人の希望、思い、真意を確認していただき、職員も合わせてさりげなく日々のかかわりの中で声をかけ確認する。出来るだけ希望に添える最善のケアプランの作成を心がけ実践しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の日々の生活の中で、さりげなく生活歴を聞き、職員が共有するように心がけて日々のケアに生かしています。家族に確認すると、願望であろう、事実は違う事もあった。その人の自分史を大切にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の一日の暮らし方リズムを把握しているので、オシメ対応者にも時間がくれば、声掛けトイレ誘導を実施しています。だきただけ尿意のある人は、そのようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の、日ごとの日常生活で、モニタリング・アセスメントを繰返し行なう、又、ご家族様の意向等も考慮し、介護計画を作成しケアを実施しています。その日と全体を見るように心がけます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の、一人一人の個別の介護計画に副って実践された結果、どのようになったか評価を日常的に「きずきノート」に記入し今後の介護計画の参考にしていきます。職員全員が共有し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、一人一人の家族様の状況や要望に応じて、通院等必要な支援に柔軟に対応しています。ご家族様のニーズを受け入れるように柔軟な対応を心がけ実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	倉敷市立図書館より100冊の図書の3ヶ月貸出を受けて配達、交換をお願いしています。桜の花見には、添池公園で隣の菰池コミュニティセンターを使用させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様一位一人の入所時に、受診希望を伺い主治医の変更や往診の受診等も説明し納得の上、現在は往診受診を全員受診希望しています。水島南診療所で隔週火曜日に往診		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様一人一人の主治医と看護師が同じ事業所なので、話が早く伝わり病状変化も主治医の先生に速く伝わり指示が早く対応も速くできています。入退院の時もお手伝いいただき助かっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様一人一人の希望により、入院先は水島協同病院に決めています。医療連携体制の受入れをお願いしています。日ごろより利用者の皆さん顔なじみです。皆さん組合さんです。職員も健康診断をお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、一人一人の家族様の意向を踏まえて、主治医、職員が連携を取り、安心して納得した看取りが出来るように随時意志の確認をしながら取り組んでいます。看取りは、経験済みで、大変に感謝されました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	倉敷市児島消防署の講習会を、職員全員2年1回普通救命講習1を受講しています。倉敷市消防局が認める救マーク事業所認定を頂いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等対応策標準マニュアルは、通常時の対策・災害時直前対策・災害直後の対策等作成して勉強会も年に1回利用者・職員全員参加で実施しています。防災避難訓練も年2回全員参加で実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人一人のお風呂介助、トイレ介助、オシメ交換時等絶対にドアを閉めて行なうようにしています。職員全員が、介護をする側から、介護を受ける側として考えて良心副った行動をして欲しいと指導す。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の一人一人に、これからどのような事を行ないますがどうしますか？とたずねるように声かけを行なってから、本人に自己決定する等意思を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者様の一人一人のペースを考えた余裕がある日常生活かつ余裕のあるスケジュールや日程を介護サービスに取り入れるように配慮を心がけ実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者様の衣類は、介護職員と利用者様と一緒に季節ごとの衣類を整理しています。いつも同じ場所においているので、本人で認識できるひとは、自分で着たい衣類を選んで着用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の中で、買い物・畑で収穫・あと片付け・テーブル拭き等いつの間にか分担が自然に出来て何も言わなくても各人がめいめいに、作業を手伝って頂いて大変助かっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様一人一人の食事量・バランス・水分量等を主治医より指導頂いています。業務日誌に食事の摂取量等記入確認しています。水分摂取は別紙に記載して確認しています。栄養士に指導確認頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様一人一人に毎食後は、歯磨き、義歯の手入れ等、何らかの手入れを行なうようにしています。入所者様全員が、1年に1回は、歯科医師による往診受診を受けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の尿意、便意のある方は、オシメをしても、トイレの声掛けをさりげなく行なう様に職員全員で実践しています。便意、尿意有無には関係なく出来るだけ、便所での排泄を心がけ実践しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人一人の排泄パターンを職員全員把握し介護記録に記入確認するように心がけています。水分補給と繊維質の食材を摂取するように又腸の動きを活発にする工夫で散歩等積極的に声掛けしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様一人一人の体調管理を勘案しバイタルチェックでバイタル確認後に声掛けします。異常のある方は事情を十分に説明し入浴が出来ない事を納得していただきます。介護日誌に入浴の状況を記入す。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活リズムの違いから夜中に徘徊、散歩される方も居られますが、特に注意することもせず、様子を見守り迷惑行為と危険のない限り様子を見守るように職員全員心がけて実践しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の入所者家族様より、居宅療養管理指導サービス利用を申し込んでいます。担当薬剤師より勉強会を開催及び説明会を実施して職員全員が把握出来るように心がけて実践しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者の中に毛糸を使った編み物が上手で、いろいろな物を作り皆様にプレゼントをしています。又、お茶の先生で、和室で、皆さんもお茶をたてていただく事も有ります。活動的であるよう支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で、毎週日曜日にドライブをしています。今は、出来るだけ人ごみを避けて、新型インフルエンザにかからないようにしています。花見・紅葉・春・秋のお出かけは、全員参加します。出来るだけ入所者様、家族様の希望を取り入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者様の金銭の所持については、家族の意向もさまざまあり、理解されないご家族も有りますが、ご家族の協力で小額の所持金を持っている方も居られます。家族と相談しながら支援を続けていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様、一人一人の希望により電話を架けていただいています。電話ノートに記載しています。家族、知人からの電話も、取次ぎをしています。自由に話が出来る様な支援を心がけ実践しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者様の一人一人の気持ちを考えて、しっくで、落ち着いた色の家具、調度品を置くようにしています。広さは、平均の1.5倍の広さがあり、ゆったりと、のんびりと、くつろげる空間作りを、工夫しています。エコ生活を心がけて実践しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人の配慮から、ベランダ2ヶ所、休憩室に応接セット5人掛け1組テレビ1、本棚に読書用のテーブル2組と作業用のテーブル1組又食堂は、4人テーブルが6組と和室6人テーブル1組と、空間と居場所も工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様には、本人の、馴染みの物、思い出の品、使い慣れた物品をお持ちいただくように、ご家庭の延長であるような、我が家のような安らぎの場所作りを、家族様に充分説明し理解と協力とお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の一人一人の心身状況を職員全員で観察し問題行動や問題とは何かを考え、共有するように職員全員心がけて実践しています。よく考えて必要な介助支援を行なう様にしています。		